日本臨床ストレス応答学会
The Biomedical Society for Stress Response, Japan

BSSR Japan NEWS LETTER No. 18

2023. 7.15

第 16 回臨床ストレス応答学会大会開催報告

第 16 回大会長　足立　弘明（産業医科大学医学部神経内科学講座）

令和 4 年（2022 年）11 月 5 日（土）、6 日（日）の 2 日間にわたり、産業医科大学において、第 16 回日本臨床ストレス応答学会大会を完全 Web で開催致させていただきました。多くの会員の皆様に最後までご参加いただきまして、心より御礼を申し上げます。本会では、特別講演 2 題、シンポジウム 8 題を企画し、特別講演には、ユビキチン・プロテアソーム系、αB-クリスタリン等のご研究で常に世界をリードされておられる田中啓二先生（東京都医学総合研究所）と跡見順子先生（東京農工大学）にそれぞれの最新のトピックスを、また、シンポジウムでは、基礎系のテーマとして「細胞恒常性を担うシグナルと遺伝子発現の制御」、臨床系のテーマとして「ストレス応答と疾患；Bridges to Clinics」と題して、細胞ストレス応答に関連する医科学・医学の貴重なデータを呈示していただきました。また、一般演題においても、活発な討論が展開され、大変有意義な大会となりました。若手研究奨励賞候補者発表は、小ルームに分けて実際のポスター発表のような議論の場を提供させていただきました。完全 Web 開催でしたので、参加者の皆様には会議以外の交流や北九州の街を楽しんでいただけず残念に思いましたが、プログラムの最後まで多くの参加者の先生方に聴講していただき有意義な大会であったと考えております。本大会の開催にあたりましては、多くの企業からも協賛・ご支援をいただきました。ここにあらためて御礼を申し上げます。現在は、コロナ窩も新たな局面に入り、日常の学術活動が取り戻されつつあります。全国のストレス応答の分子生物学、細胞生物学、臨床医学の研究者、および医師、医療・保健関係者が細胞ストレス応答研究の未来に思いを馳せ、日本臨床ストレス応答学会のさらなる発展を目指して、会員の皆様には最近の進歩と展望について熱い議論を続けていただきたいと考えます。この度は、大会にご参加いただき誠にありがとうございました。今後もどうぞよろしくお願いいたします。

令和 5 年 7 月
第 16 回日本臨床ストレス応答学会大会長
足立　弘明

日本臨床ストレス応答学会若手研究奨励賞

2022 年度第 10 回若手研究奨励賞は、親泊政一選考委員長をはじめとする 5 名の選考委員の厳正な審査のもと、以下の 5 名の先生が選ばれました。

翁　良徳（大阪公立大学大学院医学研究科医化学）
「TGF-β1/SMAD2 シグナルを介したサイトグロビン発現の抑制は非アルコール性脂肪性肝炎における肝星細胞の酸化的 DNA 損傷を引き起こす」

上川　泰直（広島大学大学院医系科学研究科分子細胞情報学）
「核膜ストレス応答の分子機構とその生理的意義」

谷内　秀輔（旭川医科大学薬理学講座）
「小胞体ストレスセンサーPERK の活性化によるリン酸化を介した HMGB1 の分泌機構」

藤野　雄三（近畿大学医学部大学院医学研究科内科学教室脳神経内科部門）
「FUS は RNA シャペロンとして GGGGCC リピート RNA からの RAN 翻訳を抑制し、*C9orf72* 関連 ALS/FTD における変性病態を改善する」

和田　朝香（札幌医科大学医学部病理学第一講座）
「hERO1-Lα を標的としたトリプルネガティブ乳癌の新規治療戦略」

2022 年度　若手研究奨励賞選考委員

親泊　政一（徳島大学）選考委員長
伊藤　英晃（東京大学）
永井　義隆（近畿大学）
樋口　京一（長野保健医療大学）
江口　傑徳（岡山大学）

第 17 回 日本臨床ストレス応答学会大会のご案内

この度、令和 5 年 11 月 17 日（金）～18 日（土）に、第 17 回日本臨床ストレス応答学会大会を徳島大学蔵本キャンパスにて開催させていただく運びとなり、大会長としてご挨拶申し上げます。

生物は常に様々なストレス侵襲を受けており、そのようなストレス刺激に対する適応機構であるストレス応答は、生体の恒常性維持を担っています。重力ストレスが骨形成において重要な要素であるように、ストレスは必ずしも害となるものばかりではありません。しかしながら、過剰なストレスの蓄積やストレス応答機構の破綻は、代謝疾患、虚血性心・脳疾患、神経変性疾患、精神疾患、免疫疾患、悪性腫瘍などの様々な疾病を引き起こすと考えられています。それらには、ライフスタイルの変化に加えて高齢化に伴って社会的にも解決が求められる慢性疾患や未だ治療法が見つかっていない難治性疾患が含まれています。そのため、ストレス応答の生理的機能とその破綻による疾患発症機序を解明し、創薬などによる疾患克服は本学会の使命と言えます。この目標に向かって、多様な分野の基礎・臨床研究者が一堂に会し、討議する本大会の重要性を感じております。

本大会では、特別講演として細胞周期とヒト疾患との関わりを明らかにすると共に、次世代プロテオミクス技術の開発にも大きな業績をあげている中山敬一先生をお招きして、最新のトピックスをご講演頂きます。シンポジウムとして「オミクスで拓くストレス研究」と「プロテオスタシスからの疾患解明」を企画しております。例年同様に一般演題では口頭発表とポスター発表を行い、若手研究奨励賞候補者にはポスター討論も行っていただきます。本年度も 5 名程度の表彰を予定していますので、多数の若手研究者の応募をお待ちしております。

新型コロナウイルス感染症の拡大により本大会も中止やオンラインのみの開催もありましたが、ワクチンや治療薬の開発で 5 類移行に伴い本大会は現地開催のみとします。これまで制限されていた対面での研究交流を再開することで、本学会の活動が益々発展することを祈念しております。多数のご参加を心よりお待ち申し上げます。

令和５年７月吉日
第 17 回日本臨床ストレス応答学会大会長
徳島大学 先端酵素学研究所 生体機能学分野
教授 親泊　政一

会期：2023年11月17日（金）、18日（土）
会場：徳島大学先端酵素学研究所 藤井節郎記念医科学センター　藤井節郎記念ホール
徳島市蔵本町 3-18-15
https://www.fujii.tokushima-u.ac.jp/

39 歳以下の若手研究者による優れた研究を表彰し奨励する目的で、**「日本臨床ストレス応答学会若手研究奨励賞」**を選考いたします。
詳細は演題申込方法をご覧下さい。また、下記の特別講演、シンポジウム、ランチョンセミナーを予定しています。

特別講演

11 月 17 日（金）午後
中山　敬一　先生　（東京医科歯科大学・高等研究院・特別栄誉教授）
「次世代プロテオミクスが拓く医学生物学の新地平：100 年来のがんの謎を解く」

シンポジウム

11 月 17 日（金）午後
「オミクスで拓くストレス研究」
小林 穂高 先生（徳島大学先端酵素学研究所・准教授）
清水 重臣 先生（東京医科歯科大学難治疾患研究所・教授）
矢吹 悌 先生（熊本大学発生医学研究所・助教）
弓本 佳苗 先生（九州大学生体防御医学研究所・助教）

※五十音順

共催：高深度オミクス医学研究拠点整備事業

11 月 18 日（土）午前
「プロテオスタシスからの疾患解明」
門脇 寿枝 先生（宮崎大学医学部・准教授）
松田 憲之 先生（東京医科歯科大学難治疾患研究所・教授）
三宅 雅人 先生（徳島大学先端酵素学研究所・准教授）
森戸 大介 先生（昭和大学医学部・講師）

※五十音順

共催　日本医療研究開発機構 革新的先端研究開発支援事業
「プロテオスタシスの理解と革新的医療の創出」

ランチョンセミナー

11 月 18 日（土）午後**（予定）**

大会事務局:

第 17 回日本臨床ストレス応答学会大会事務局
〒770-8503 徳島市蔵本町 3-18-15
徳島大学先端酵素学研究所生体機能学分野内
Tel: 088-633-9456　Fax: 088-633-9492
e-mail:bssrj2023@gmail.com

大会参加費： 一般　５,０００円　　学生　２,０００円
事前支払いのため HP より参加登録の上、以下の口座に納入をお願い致します。

銀行名：阿波銀行　蔵本支店
番号：普通　1230890
名義：第 17 回日本臨床ストレス応答学会大会　大会長　親泊　政一
（ダイジュウナナカイ　ニホンリンショウストレスオウトウガッカイ　タイカイ　タイカイチョウ　オヤドマリ　セイイチ）

＊ **お振込の際、ご所属と参加登録者名の記載（入力）をお願い致します。**
振込用紙へ「例：臨床大学　山田太郎」のように記載頂くか、ATM の場合は「例：リンショウダイガク　ヤマダタロウ」のように入力ください。

＊ 大会事務局からの参加費領収書につきましては、学会当日受付でネームカード（参加証）と一緒にお渡し致します。

懇親会費： 一般　５,０００円　　学生　２,０００円
学会初日に受付でお支払いください。

参加申込方法：

参加登録は大会ホームページから登録してください。
http://bssr.jp/endai/

事前参加申込締切：2023 年 11 月 8 日（水）

演題申込方法：

本学会の一般演題発表者としてのお申込みは、一人一題に限られます。ただし、他の演題の共著者になることは差し支えありません。また、**発表者は本学会員に限ります**。申込みには**事前参加登録及び年会費、参加費の振込みが必要です**。

演題応募締切：2023年9月8日（金）

演題申し込み要領は学会ホームページをご覧ください。

http://bssr.jp/endai/

若手研究奨励賞について:

日本臨床ストレス応答学会では、若手研究者による優れた研究を表彰し奨励する目的で、「日本臨床ストレス応答学会若手研究奨励賞」を設けます。応募資格・ 応募方法・選考方法・授賞式に関する詳細は下記の通りです。

●応募資格: 第17日本回臨床ストレス応答学会大会当日(2023年11月17日)において、39歳以下の若手研究者。

●応募方法: 演題応募時、抄録ファイル（HPよりダウンロード）に「若手研究奨励賞に応募する」と記載すること。

●選考方法: 若手研究奨励賞への応募演題は大会中に口演およびポスター形式でご発表いただきます。抄録と発表内容を4-5名の選考委員が審査し、5名程度の受賞者を選出します。

●授賞式 大会1日目（11月17日）の懇親会において、会長より賞状並びに副賞（賞金）が授与されます。応募されるかたは懇親会への出席をお願い致します。

第 17 回大会実行委員会

委員長：親泊 政一（徳島大学先端酵素学研究所生体機能学分野・教授）

委員：

足立 弘明（産業医科大学医学部神経内科学）
岩脇 隆夫（金沢医科大学総合医学研究所生命科学研究領域細胞医学研究分野）
鵜殿 平一郎（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科腫瘍制御学講座免疫学分野）
江口 傑徳（岡山大学大学院医歯薬総合研究科歯科薬理学分野）
木村 洋子（静岡大学大学院農学研究科応用生物化学専攻）
鳥越 俊彦（札幌医科大学医学部病理学第一講座）
中井 彰（山口大学大学院医学系研究科医化学講座）
永井 義隆（近畿大学医学部脳神経内科）
西頭 英起（宮崎大学医学部機能生化学）
養王田 正文（東京農工大学大学院工学府生命機能科学部門）
横田 伸一（札幌医科大学医学部微生物学講座）

（五十音順）

大会事務局:

第 17 回日本臨床ストレス応答学会大会事務局
〒770-8503 徳島市蔵本町 3-18-15
徳島大学先端酵素学研究所生体機能学分野内
Tel: 088-633-9456　Fax: 088-633-9492
e-mail:bssrj2023@gmail.com

学会事務局：

札幌医科大学医学部病理学第一講座内
Tel: 011-611-2111（内線26910）Fax: 011-643-2310
e-mail: BSSR@sapmed.ac.jp

＜Expert Series No. 3＞

本学会の前身である「臨床ストレス蛋白質研究会」の創設当初からご尽力賜りましたアドバイザー、名誉会員の先生にご寄稿いただき、連載することとなりました。第 3 回目は、地方独立行政法人大月市立中央病院／山梨大学医学部付属病院東部地域医療教育センターの野村馨先生です。

****

学びと交流の場：臨床ストレス蛋白質研究会と地域医療

地方独立行政法人　大月市立中央病院
山梨大学医学部付属病院　東部地域医療教育センター
野村　馨

BSSR ニュースに寄稿をとの依頼を受けて、適任とは思えないのですが、弁明は省きましょう。臨床ストレス応答学会の前身である臨床ストレス蛋白質研究会発足当時のこと、私の近況など紹介させてもらいます。

平成 8 年（1996 年）、私は東京女子医科大学内分泌疾患総合医療センター（第二内科）に在籍していました。日本で最も精力的に内分泌の研究と診療をおこなっていた教室でした。内分泌学は新たなホルモンや生理活性物質を見出してはその生理的、病態生理的意義を解明していくことで発展してきました。当時も内分泌臓器ではないと考えられていた心臓から ANP/BNP、脂肪組織からアデポネクチンなどが相次いで見いだされ、その研究が盛んに競われていました。基礎医学では熱ショックタンパク質（HSP）/ストレスたんぱく質が注目されていました。当時の私の理解では細胞が熱などのストレスにさらされると通常のタンパク合成などは止まり一連の HSP だけが合成されてくる。それが細胞のストレス耐性を高める。この様子はホルモンのストレス応答にも似ていて内分泌屋としても大層、興味を引くものでした。文献を読み自分でも少し実験を始めこの細胞の中のストレス応答に

ついて臨床研究に展開できないかとの思いが募りました、そのような交流の場が欲しくなりました。ストレス蛋白質を取り上げる学会は基礎系であり、私のようにこれから研究を始めようとする臨床医には敷居が高く感じられました。基礎系とか臨床系とか区別するのも妙な話と思いますがね。

ストレス蛋白質をキーワードにして臨床研究者と基礎研究者が学びあう研究会を作ろうといろいろな方に相談を持ち掛けました。特に永田和宏先生（京都大学　当時）と伊藤英晃先生(秋田大学　当時)には趣旨に賛同していただき具体的なご尽力をいただきました。第1回臨床ストレス蛋白質研究会が平成8年11月9日東京女子医科大学で開催されました。副題に「熱ショック蛋白質：ストレス蛋白質と臨床医学の関連を考える」に当時の我々の気持ちが込められています。特別講演は永田和宏「ストレス応答：基礎から臨床へ」とまさにキックオフにふさわしい題目でした。一般演題は23題でした（写真１）。機が熟していたのでしょうが、いわば瓢箪から駒のようにできた研究会でした。その後、参加者も多彩となり会期も２日間となりました。年に１回開催の研究会も１０回、１０年を迎え、さらに発展するために学会にしようとの機運が盛り上がりました。代表世話人の永田和宏先生と長く幹事を務められた方々が温泉宿の浴衣姿で語り合い、臨床ストレス応答学会（BSSR）として新たに発足することとなりました。事務局は札幌医大病理学第一（佐藤昇志。後に鳥越俊彦）となりました。私は東京女子医科大学の中で総合診療科を立ち上げ、研究も医学教育などに移行したため、平成25年（２０１２年）第７回BSSRの会長を務めさせていただいた以降は現役を退いております。BSSRは第１７回を迎えることとなり今後も発展していくことを祈念しております。

平成26年（2013年）から大月市立中央病院（山梨県大月市）で勤務を始めました（写真２）。新型コロナウイルス流行が起きてからは時差通勤として、５時４７分の電車に乗り、途中で乗り継ぎをして７時６分に大月に着きます。長い通勤時間も四季の変化を楽しんだり、読書をしたり、居眠りしたり、スマホでSNS　メールをしたりと貴重な時間です。車窓に広がる多摩川、穏やかな山並み、田園風景などは心和ませます。大月駅から病院までは10数分歩きますが、山並みや、鳥の声など楽しみが一杯です。これらの景色をFacebookで「中央線車窓から」とか「大月通勤路から」とか称して日々発信し、友人とのやり取りを楽しんでいます（写真２－6）。大月市もご多分に漏れず少子高齢化、過疎化の進む自治体です。大月市立中央病院は市内で唯一かつ自治体病院とし多様な責務を負い、地域に密着しています。大学病院での研修ではなかなか困難な地域医療やプライマリケアを学ぶに最適と考えました。入職時に臨床研修センターを作っていただき、東京女子医科大学、山梨大学医学部の初期研修医や医学生の地域医療研修の受け皿としました。市民、行政、医師会（在宅診療）も巻き込んだなかなか良いプログラムを作りました。私個人としても多くの方々と知り合いになりたくさん学びました。研修医や医学生と一緒に市内の名所や美

味しいものを楽しんだりして観光大使気分でもありました。新型コロナウイルス流行などで臨床研修センターの活動は中断していましたが、当院が今年から山梨大学医学部付属病院東部地域医学教育センターとしても活動することとなり、私もまた若い人の指導にかかわります。一方で５年前から健診センターも担当しています。国民の健康を守る重要な国の施策（対策型健診）である特定健診、がん検診は各自治体が請け負います。大月市では当院が大月市から一括委託されています。当センターでの健診の精度管理などは優れたレベルにあると自負していますが、視点を市民全体に向けると、受診率を上げる、病気の予防・早期発見につながる効果的対策の検討など課題がたくさんあります。住民、行政、議会、病院、医師会などの関係者との協働をさらに進めたいと考えています。住民の健康状態にはそれぞれの地域の特長があります。積みあがった健診データを分析し、その特色をとらえ、市民の健康増進に貢献できればと願いますし、それを論文などにしたい、楽しみたいと考えています。

私にとり関心のあるテーマに様々な方々が集まり交流することは何よりの喜びです。臨床ストレス応答学会も大月市立中央病院での活動も交流の場であるから楽しいのだと感謝しています。駄文を読んでくださり有難うございました。野村との交流に興味があればメッセージを添えて下記にお願いします。

メールアドレス　nomurakaoru@gmail.com

Facebook 野村馨では日々の平凡な楽しみなどを発信しています。

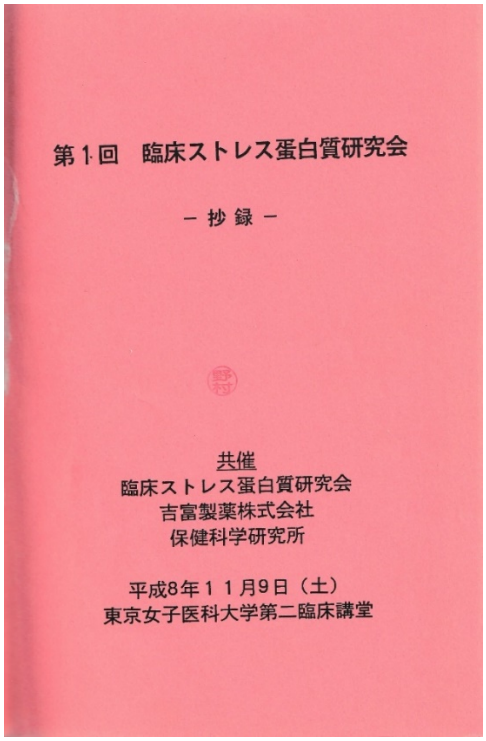

写真１．第１回臨床ストレス蛋白質研究会　抄録表紙

写真２．大月市立中央病院　２０１７年４月１７日
坂道はソメイヨシノ、オニグルミなどが生えています。丘の上の病院のどの窓からも自然豊かな山々が望めます。病院奥はむすび山といい、山頂からの富士山の眺めは最高に素敵です。またそこには東京に空襲に向かう米軍 B29 の監視所跡があります。

写真３．中央線車窓から　２０２２年１１月４日６時７分
多摩川の朝焼け　晩秋と早春に通勤時間と日の出時間が交差します。
毎日変わる色彩の妙は楽しみです。晩秋にはこれから来る冬の暗さを、早春には桜の開花を思います。
立川駅・日野駅間で多摩川をわたる多摩川橋梁から下流を望む。

写真４．中央線車窓から２０２３年２月９日６時４７分
上野原駅・四方津駅間、雪が残るもやの静かな朝です。空は明るくなっています。

写真５．中央線車窓から２０１７年５月２５日９時３５分
春の藤崎地区
猿橋駅・鳥沢駅間にかかる中央本線最長の桂川橋梁からの眺めです。桂川（相模川）の初夏は鮎釣りでにぎわいます。藤崎は富士山の溶岩がここまで来た、富士の先との意味だそうです。

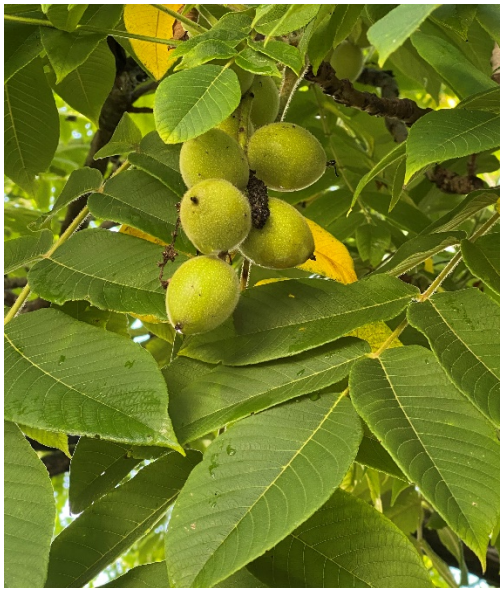

写真６．大月通勤路から 20023 年６月７日７時２０分
病院への上り坂に鬼胡桃の大樹があります。春には風変わりな雄花雌花、夏には緑陰、秋には落下したクルミ拾い、冬には裸の木肌の美しさなど、四季を通じて楽しませてくれます。

学会役員・幹事・評議員

学会役員（2022年4月1日～2024年3月31日）

会長　養王田　正文（東京農工大学）
副会長　岩脇　隆夫（金沢医科大学）
総務　木村　洋子（静岡大学）
会計　横田　伸一（札幌医科大学）
広報　江口　傑徳（岡山大学）
企画　足立　弘明（産業医科大学）
企画　永井　義隆（近畿大学）
企画　中井　彰（山口大学）
企画　西頭　英起（宮崎大学）
企画　鳥越　俊彦（札幌医科大学）
監事　鵜殿　平一郎（岡山大学）

アドバイザー　伊藤　英晃（東京大学）
永田　和宏（JT 生命誌研究館）
田中　啓二（東京都医学総合研究所）
柴田　亮行（尚寿会大生病院）
樋口　京一（長野保健医療大学）
大塚　健三（中部大学）
藤木　幸夫（九州大学）

名誉会員　野村　馨（大月市立中央病院）
佐藤　昇志（札幌医科大学）

学会幹事

青江 知彦　帝京大学ちば総合医療センターペインセンター
足立 弘明　産業医科大学医学部神経内科学講座
跡見 順子　帝京大学先端総合研究機構オープンイノベーション部門
石垣 診祐　滋賀医科大学神経難病研究センター
一條 秀憲　東京大学大学院薬学系研究科細胞情報学教室
今泉 和則　広島大学大学院医系科学研究科分子細胞情報学
今本 尚子　理化学研究所開拓研究本部今本細胞核機能研究室
岩脇 隆夫　金沢医科大学総合医学研究所生命科学研究領域細胞医学研究分野
鵜殿 平一郎　岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻腫瘍制御学講座免疫学分野
漆谷 真　滋賀医科大学内科学講座、脳神経内科
江口 傑徳　岡山大学大学院医歯薬総合研究科歯科薬理学分野
親泊 政一　徳島大学先端酵素学研究所生体機能学分野
甲斐 広文　熊本大学大学院医学薬学研究部先端生命医療科学部門分子機能薬学講座
木村 洋子　静岡大学大学院農学研究科応用生物化学専攻
久保田 広志　秋田大学大学院理工学研究科・工学資源学部生命化学科基礎生命化学講座
小林 聡　同志社大学大学院生命医科学研究科医生命システム専攻

武川 睦寛	東京大学医科学研究所分子シグナル制御分野
田村 保明	札幌医科大学医学部病理学第一講座
徳永 文稔	大阪公立大学大学院医学研究科医化学
鳥越 俊彦	札幌医科大学医学部病理学第一講座
内木 宏延	福井大学医学部分子病理学
中井 彰	山口大学大学院医学系研究科医化学分野
永井 義隆	近畿大学医学部脳神経内科
西頭 英起	宮崎大学医学部機能生化学
長谷川 隆文	東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座神経内科学分野
原 勲	和歌山県立医科大学医学部泌尿器科学教室
古橋　眞人	札幌医科大学循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座
堀 修	金沢大学医薬保健研究域医学系神経分子標的学講座
松岡 雅人	東京女子医科大学衛生学公衆衛生学講座（環境・産業医学分野）
森 和俊	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻生物物理学教室・ゲノム情報分野
養王田 正文	東京農工大学大学院工学府生命機能科学部門
横田 伸一	札幌医科大学医学部微生物学講座

以上 32 名（五十音順）

学会評議員

青江 知彦	帝京大学ちば総合医療センターペインセンター
秋吉 一成	京都大学大学院工学研究科高分子化学専攻生体機能高分子分野
足立 弘明	産業医科大学医学部神経内科学講座
跡見 順子	帝京大学先端総合研究機構オープンイノベーション部門
石垣 診祐	滋賀医科大学神経難病研究センター
一條 秀憲	東京大学大学院薬学系研究科細胞情報学教室
伊藤 英晃	東京大学大学院農学生命科学研究科応用生命化学専攻
今泉 和則	広島大学大学院医系科学研究科分子細胞情報学
今本 尚子	理化学研究所開拓研究本部今本細胞核機能研究室
岩脇 隆夫	金沢医科大学総合医学研究所生命科学研究領域細胞医学研究分野
鵜殿 平一郎	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科病態制御科学専攻腫瘍制御学講座免疫学分野
漆谷 真	滋賀医科大学内科学講座、脳神経内科
江口 傑徳	岡山大学大学院医歯薬総合研究科歯科薬理学分野
及川 大輔	大阪公立大学大学院医学研究科医化学
大塚 健三	中部大学
親泊 政一	徳島大学先端酵素学研究所生体機能学分野
小山田 正人	藤女子大学人間生活学部食物栄養学科
甲斐 広文	熊本大学大学院医学薬学研究部先端生命医療科学部門分子機能薬学講座
勝野 雅央	名古屋大学大学院医学系研究科神経内科
金関 貴幸	札幌医科大学医学部病理学第一講座
木村 洋子	静岡大学大学院農学研究科応用生物化学専攻
久保田 広志	秋田大学大学院理工学研究科・工学資源学部生命化学科基礎生命化学講座
桑田 一夫	岐阜大学大学院連合創薬医療情報研究科
小亀 浩市	国立循環器病研究センター分子病態部
小瀬　真吾	理化学研究所開拓研究本部今本細胞核機能研究室

後藤 知己	熊本大学教育学部養護教諭養成課程
小林 聡	同志社大学大学院生命医科学研究科医生命システム専攻
小林 正伸	北海道医療大学看護福祉学部生命基礎科学講座
佐藤 昇志	札幌医科大学医学部
佐原 弘益	麻布大学獣医学部
塩田 正之	大阪公立大学大学院医学研究科分子制御生物学
柴田 亮行	尚寿会大生病院
関山 敦生	大阪大学大学院薬学研究科先制心身医薬学寄附講座
祖父江 元	愛知医科大学
武内 敏秀	近畿大学ライフサイエンス研究所
武川 睦寛	東京大学医科学研究所分子シグナル制御分野
田中 啓二	東京都医学総合研究所
田村 保明	札幌医科大学医学部病理学第一講座
田村 裕	千葉大学大学院医学研究院
千葉 進	医療法人渓仁会札幌西円山病院
徳永 文稔	大阪公立大学大学院医学研究科医化学
鳥越 俊彦	札幌医科大学医学部病理学第一講座
内木 宏延	福井大学医学部分子病理学
中井 彰	山口大学大学院医学系研究科医化学分野
永井 義隆	近畿大学医学部脳神経内科
永田 和宏	JT生命誌研究館
西田 憲生	徳島大学大学院医歯薬学研究部遺伝情報医学分野
西頭 英起	宮崎大学医学部機能生化学
野村 馨	大月市立中央病院総合診療
長谷川 隆文	東北大学大学院医学系研究科神経・感覚器病態学講座神経内科学分野
原 勲	和歌山県立医科大学医学部泌尿器科学教室
樋口 京一	長野保健医療大学地域保健医療研究センター
久留 一郎	国立病院機構米子医療センター/鳥取大学医学部医学科ゲノム再生医学講座
藤木 幸夫	九州大学
古橋 眞人	札幌医科大学循環器・腎臓・代謝内分泌内科学講座
堀 修	金沢大学医薬保健研究域医学系神経分子標的学講座
増井 憲太	東京女子医科大学医学部病理学第一講座
増本 純也	愛媛大学大学院医学系研究科ゲノム病理学分野
松岡 雅人	東京女子医科大学衛生学公衆衛生学講座（環境・産業医学分野）
森 和俊	京都大学大学院理学研究科生物科学専攻生物物理学教室・ゲノム情報分野
山田 健人	埼玉医科大学医学部病理学・大学病院中央病理診断部
養王田 正文	東京農工大学大学院工学府生命機能科学部門
横田 伸一	札幌医科大学医学部微生物学講座
吉田 賢右	京都産業大学工学部生物工学科

以上64名（五十音順）

Chaperone Code Program

October 26, 2023

2-4pm: Registration Open
5pm: Introduction Mehdi Mollapour (State University of New York Upstate Medical University, USA)
Keynote Lecture: Johannes Buchner (Technical University of Munich, Germany)
"A code of conformational switching in Hsp90"
6pm: Dinner

October 27, 2023

7:30-8:45am: Breakfast
8:45-10:15am: Session 1: Determinants of Hsp90 function.
Chair: Mark Woodford (State University of New York, USA)
8:45am Dimitra Bourboulia (State University of New York, USA)
9:00am Jill Johnson (University of Idaho, USA) "*The conformational code of Hsp90 impacts Hsp90 activity"*
9:15am Andrea Rasola (University of Padova, Italy)
9:30am Walid Houry (University of Toronto, Canada) *The Role of the Hsp90-R2TP Chaperone Complex in Ciliogenesis"*
9:45am Chris Prodromou (University of Sussex, UK)
10:00am Sarah Backe (State University of New York, USA)
10:15-10:45am: Break

10:45am-12:15pm: Session 2: Targeting Hsp90 Chaperone Complexes.
Chair: Mehdi Mollapour (State University of New York, USA)
10:45am Brian Blagg (Notre Dame University, USA)
11:00am Giorgio Colombo (University of Pavia, Italy)
11:15am Byoung Heon Kang (Ulsan National Institute, South Korea)
11:30am Ioannis Gelis (University of South Florida, USA)
11:45am Paul LaPointe (University of Alberta, Canada)
12:00pm Rebecca Sager (State University of New York, USA)
12:15-1:30pm Lunch

1:30-2:45pm: Session 3: The Hsp70 Chaperone Code.
Chair: Dimitra Bourboulia (State University of New York, USA)
1:30pm Lila Gierasch (University of Massachusetts, Amherst, USA)
1:45pm Len Neckers (National Cancer Institute, USA) *"Metabolic regulation of the chaperone code – Lactylation of BiP"*
2:00pm Andrew Truman (UNC Charlotte, USA) "*Systematic analysis of Hsp70 phosphorylation using the chaperone code collection"*
2:15pm Seema Mattoo (Purdue University, USA) - Manipulating AMPylation
2:30pm Matthias Truttmann (University of Michigan, USA)
2:45pm Milad Alasady (Northwestern University, USA), *"A JMJD6-HSF1-HSP feed forward circuit promotes cell adaptation to proteotoxic stress."*
2:45-3:15pm: Break

3:15-4:30pm: Session 4: Drivers of the Cell Stress Response.
Chair: Patricija van Oosten-Hawle (UNC Charlotte, USA)
3:15pm Lea Sistonen (Abo Akademi University, Finland), "*Searching for HSF Interactomes"*
3:30pm Aimee Kao (UCSF, USA)
3:45pm Natasha Zachara (Johns Hopkins, USA)
4:00pm Dan Gewirth (University at Buffalo, USA)
4:15pm Richard Carpenter (Indiana University, USA)
5:30pm Dinner

~ 事務局からのご連絡 ~

入会手続き：

学会ホームページから手続きをお願い致します。

http://bssr.jp/nyukai/

年会費:

一般会員　7,000 円　　学生会員　3,000 円　　企業賛助会員　50,000 円

※2023 年度より一般年会費が変更となりました。

以下の郵便口座へお振込ください。

加入者名：臨床ストレス応答学会

口座番号：02730-3-64452

大会ポスターについて：

第 17 回日本回臨床ストレス応答学会大会のポスターを事務局に用意しております。できるだけ多くの基礎・臨床研究者に参加していただくため、ポスターを配布して宣伝していただきますようお願い申し上げます。事務局まで必要枚数をお知らせ下さい。

****

日本臨床ストレス応答学会事務局

〒060-8556 札幌市中央区南 1 条西 17 丁目

札幌医科大学医学部病理学第一講座内　金関貴幸

TEL: 011-611-2111 (内線 26910)　FAX: 011-643-2310

e-mail: BSSR@sapmed.ac.jp

ホームページ：http://bssr.jp